城下士児玉家の日記 下

安藤　保

（一九八三年十月十五日　受理）

差出
巳札御改元
家内人数六人
内壱人死人
現人数五人
出銀五分
右は当酉年壱分出銀と〆上納仕候、以上
酉九月六日
二番与家督
児玉五兵衛印
二番触役所
本文福崎清之進殿所江嘉永二年酉九月六日差出ス

ふた紙
嘉永三年戌五月
差出
菱刈杢之介組
御小姓与
児玉五兵衛
二番組小与七番方限
御小姓与

一　持高弐拾六石弐斗五升
一　御家老座書役
　但、御軍役不被仰付置候
一　当戌四拾六歳
一　居所高見馬場
右御用御見合相成候間、可申出旨被仰渡趣承知仕、右之通御座候間、此段申上候、以上
嘉永三年戌五月
六組触役所
児玉五兵衛印
右之通戌五月廿日、同案弐通ヲ以、小与頭湯地甚之丞殿所江為持差遣候事

差出
巳札御改元
家内人数六人
内壱人死人
右は切支丹宗門御改ニ付、被仰渡趣承知仕候、右宗旨之者無御座候、若以後入来申候は、即言上可仕候、以上
戌六月十六日

二番与家督
児玉五兵衛印

二番触役所
右之通今日小与頭山崎半助殿江差出ス

一　五兵衛事、御家老座書役ニて口永良部島詰在番景勢として、酉春代渡海被仰付、酉正月廿一日乗船被仰付、同二月十二日鹿児島打立鹿籠浦迄差越、牧口浦之善左衛門所江同三月三日まて滞在船待いたし、善左衛門仕出之鰹船候、酉三月四日昼時分出帆、翌五日朝四ツ時分口永良部島江致着、即先詰横目四本喜十郎殿江代り合番所江直ニ引移り候、四本氏は弁指仲助所江宿直り被致候、四本氏ハ同七月十二日口永良部島より帰帆被致候、左候て当戌春代横目椎原矢兵衛殿拙者為代二月十日被致着、二月末頃番所引渡、尤御用向等三月朔日引渡候、拙者は庄屋新吉所江致宿直候、同五月五日昼時分鹿籠之庄市船江乗船帰帆之処、風并不宜、竹島辺より佐多御崎沖江流れ、夫より六日夜五ツ時分鹿籠之内白沢津川口江汐掛、翌七日朝五ツ時分鹿籠牧口浦之善左衛門所江致着一宿、同八日打立喜入坂之下、瀬々串在江一宿、同九日鹿児島江致在着候事

一　嘉永三戌六月晦日、田上喜藤次殿妻おみよ殿御事、亡父上様御為異父之御兄弟妹ニて、拙者為ニは伯母之訳、今日被致病死候段田上藤八殿より為知申来候、拙者忌五日服十五日相掛候付、翌七月朔日御家老座江児玉十悦殿ヲ以御届申出候事

右ニ付、忌御免左之通

御自分事、忌中ニて候得共、御用差支候付忌被成御免候条、明日より可被致出勤旨御差図ニて候、以上

七月朔日

下紙半切切封
児玉五兵衛殿　　川上右近

百田半切切封ニて御受左之通

私事忌被成御免、明日より出勤可仕旨、依御差図御達之趣奉畏候、以上

七月朔日
川上右近様　　児玉五兵衛

右之通触番江差渡候事、御本文此下ニ入置也
（本文略す）

田壱畝拾七歩
納米弐斗七升八合　　児玉市左衛門

一　五兵衛事、戌八月廿一日奥掛書役江戸詰等ニて差支候付、差寄相勤候様豊後殿より御書付ヲ以御側御用人東郷左太夫殿より被仰付候事

但、覚山八郎太殿一紙ニ有之、拙者名代聞之事

差出

酉八月より当戌七月迄之間何御奉公相勤候哉、可申出旨承知仕候、私事御家老座書役被仰付置相勤申候、尤持高弐拾六石弐斗五升所持仕候、此段申出候、以上

戌八月廿四日
二番与家督
児玉五兵衛印

二番触役所

差出

巳札御改元
家内人数六人
内老人出人

壱人死人
現人数四人
出銀四分
右は当戌年壱分出銀上納仕候、以上
戌八月廿四日　二番与家督
児玉五兵衛印

二番触役所
右弐行戌八月廿四日、出銀共小与頭佐伯善左衛門殿所江下人江為持差遣事

嘉永三年戌九月十二日、小筒鉄炮師家郷原轉殿江五兵衛事致入門候、外ニ川西藤五郎殿壱人ニて候、大かね時分より麻袴着用藤五郎殿方江差越、暮時分同道郷原家江差越候処、表玄関江扣居、夜入過表江御進候様致承知、同門人市来万次殿誓詞向取扱被致、名乗書判は此方より認血判いたし候、夫より神文前書等轉殿より被弘相済、鉄炮ため方指南等有之、終て差身すへ江汲物壱ツ、挾肴一ツ被出、壱通り取かわし相済、夫より引取候事
但、川西氏拙者両人酒八盃樽ニ肴致進上候事

嘉永三年戌九月改児玉五兵衛利容代武道具所持品左之通
松方七郎左衛門正興作銘有、安永七年七月年号有
一　六匁弐分鉄炮壱挺
但、鋳并藻玉胴乱相添　脛ね挾壱ツ　大鋳鍋壱ツ
銘無し当戌春ロ永良部島ニて屋久島之者より求
一　三匁弐分鉄炮壱挺
但、鋳相添
一　陣笠弐ツ
但、唐団輪なく紋所壱ヶ所ツ、有之、金箔紋
一　半首三ツ
但、是紋付二ツは銀箔紋、壱ツハ金箔紋也
一　手鑓壱本
但、作藤原国安、裏目上ニ安楽丹後守入道と有之、古作と相見得候、拵青貝たち金めきゝ輪なし、唐団弐寸所打付也

蓋紙左之通
嘉永三年戌十一月

差出
菱刈杢之介組
御小姓与
児玉五兵衛

本行同案弐通掛張ニして小与頭有馬新七殿所江為持差遣事
二番組小与七番方限
御小姓与
児玉五兵衛

一　持高弐拾六石弐斗五升
一　御家老座書役
但、御軍役不被仰付置候
一　当戌四拾六歳
一　居所高見馬場
右御用相成候間可申出旨被仰渡趣承知仕、右之通御座候間、此段申上候、以上
嘉永三年戌十一月　児玉五兵衛印
六組触役所

百田竪紙
覚　請取数拾五通

高頭弐拾六石弐斗五升
出米弐石九斗壱升四合
内、真米壱石四斗五升七合
赤米壱石四斗五升七合
真米弐斗八升八合　賦米
合真米壱石七斗四升五合
合赤米壱石四斗五升七合
請取数六通
一 真米壱石三斗壱升九合　当所出物蔵入
請取数弐通
一 赤米六斗七升六合　右同蔵入
請取数四通
一 真米五斗八升九合　柏原出物蔵入
請取数三通
一 赤米六斗弐升　右同蔵入
合真米壱石九斗八合
内壱斗六升壱合　赤米代ニ入
合赤米壱石弐斗九升六合
差引真米弐合過
右は私持高当戌秋綱被仰付被下度奉存候、以上
戌十二月二日　児玉五兵衛印
高奉行所

半切認
覚
一 高拾七石　鹿児島　犬迫村
一 高六石弐斗五升　鹿児島　中　村
一 高三石　高山　野崎村

右之通私持高所持仕候、以上
戌十二月二日　児玉五兵衛印
高奉行所
右之通高綱嘉永三年戌十二月二日高奉行所書役西郷助右衛門殿江相頼候処、即日御高綱相済候旨承届候、尤弐合之過米不請取候事
御賄料并三割引等之儀当亥正月より、重出米之儀は当秋より御免被仰付候付、御軍役御手当向等之儀可相嗜旨被仰渡趣謹て奉承知、難有次第奉存候、依之御礼申上候、以上
亥正月廿三日　二番与家督　児玉五兵衛
二番触役所
右之通嘉永四年亥正月廿三日、小与頭福崎清之進殿所より御通達致承知、尤右通書付ヲ以御礼申出候様致承知候、御進達ハ委細留略ス、江戸御賄引并御合力銀等且又御当地役料米・御扶持米・旅御扶持米三割御差引なく、持高ニ相掛三升重之儀も、当亥秋より御免被仰付候事
一 五兵衛当務ニ付、来子秋代蔵方願順番前ニ付、嘉永四年亥正月十二日表向御用番御家老末川近江殿より御勝手方江御書付を以、御座相当之場所柄願立候様御達相成候、尤御勝手方御家老元高懸近江殿也、書役其役限礼廻りいたし候、近江殿御方江も御礼罷出置候、外ニ願人跡一番奥掛塚堀与左衛門殿、次ニ表書役高崎五兵衛、其次ニ菱田伝兵衛との、初ては大野五左衛門殿也、五兵衛は是れニて三度目也
奉児玉五兵衛
右御用候間、明廿一日四時麻袴着用ニて可被罷出候、以上

嘉永四亥
二月廿日

御勝手方御用人也
谷川次郎兵衛

御書付之写、本書小奉書切紙
一 屋久島奉行
一 御役料米三拾四俵

児玉五兵衛

右之通御役被　仰付、御役料米被下置候
右御格之通可申渡候
二月　近　江

本文ニて御家老座清書掛書役より当年迄都合弐拾四ヶ年目ニて、御役被仰付候事、尤御役料米は書役之内被下置候侭持越ニて被成下候事、屋久島奉行全躰は御役料銀三枚ニて候へとも、御本文通被下候事

右之通嘉永四亥二月廿一日つちのへとら天赦日、御用罷出、御勝手方御用人谷川次郎兵衛殿江御届申上候処、御□□□□□□□□□□□□□□□□□桃之間江扣居候処、御目付種子島次郎右衛門殿、加藤東一郎殿、新納伊十郎殿差引ニて一通り習礼いたし、御勝手方御用人谷川次郎兵衛殿より右御書付通読終被相渡、御礼申上相下り候、尤列席伊十院喜左衛門殿ニて候、頭習礼通り鳥渡罷出、末席より御礼いたし、是れ江と被申候節進ミ出、頭ハ□之本近く罷出、頭を提ヶ居候処、本文通読方之上被相渡候事
右相済居候処、御目付より御用申来、罷出候処、近江殿被謁候筋相心得候様被相達、夫より引取候、尤御勝手御用人方江御物書壱通、誓詞願壱通、御勝手方書役大迫喜右衛門殿江頼認貰、同人より差出方相済候事
一 御側御用人衆方江い細書壱通大迫氏江相頼差出候事
右ニ付御礼廻り左之通

（居候様被申付、カ）
右同御用人也

御城代御家老座　　御家老　市成

黒木　島津豊後殿
御勝手方御家老
末川近江殿
若年寄
喜入多門殿
大目付
川上矢五太夫殿
仰渡御勝手方御用人
谷川次郎兵衛殿

島津石見殿
若年寄
島津求馬殿
大目付
樺山伊織殿

右御用之儀候間、明廿二日四時麻袴致着用可被罷出候、病気等候ハ、同格名代可被差出候、以上
嘉永四亥
二月廿一日　　大番頭座

児玉五兵衛

屋久島奉行
児玉五兵衛

右御役ニ付、一代新番被入置候
二月　大番頭

右之通嘉永四亥二月廿二日罷出、大番頭座御届申出候処、扣居候様被相達、四ツ後御本文通小奉書切紙ニて、大番頭島津隼見殿より読終之上被相渡、御礼いたし相下、再隼見殿詰席しきり内江罷入御礼申上候処、目出度と挨拶被相達、夫より相下り候
一 大番頭座江御物書差出候様致承知候付、是又大迫喜右衛門殿江相頼、差出方相済候事

右ニ付御礼廻り左之通

同番御家老　　大番頭　上之薗

黒木　島津豊後殿　　島津隼見殿

大番頭　　千石馬場　大番頭

知覧　島津右門殿　　町田堅物殿

一　御役被仰付候当日より屋久島奉行座江相詰候事

但、当同席屋久島奉行皆吉金六殿、山下喜右衛門殿、西田弥右衛門殿、川田彦九郎殿、尤彦九郎殿ハ屋久島在勤務ニ付乗船被致候へは、出勤は間々有之候、尤羽織袴ニて出勤被致候、代り在番御馬預屋久島奉行勤田尻小次郎殿也、江戸詰同席伊地知十郎左衛門殿、同御留守居附役勤野村源一郎殿、同寺社方取次勤東次郎左衛門殿、此人数ニて候事、野村氏、東氏は掛ケ飛官ニて候事

留　差出

此節　公義御尋者ニ付、旅人召抱候有無可申出旨承知仕候、私儀旅人召抱候儀無御座候、此段申出候、以上

亥四月十七日　　一代新番　児玉五兵衛印

右之通触支配有馬市左衛門殿所江差出候事

写　　児玉五兵衛

右転役被仰付候得共、当年蔵方之儀御家老座書役蔵方被仰付候員数之内ニて被仰付被下候様御内意申上候事

右之通嘉永四年亥四月八日、御家老座書役一統より御家老座島津豊後殿江御内意御勝手方御家老末川近江殿江御内意申上呉候旨長野彦七殿より致承知候付、豊後殿近江殿江即日御礼罷出申候、近江殿江は御内通願、御直ニ御礼申上候、豊後殿は些御不信按之由ニて御内通不致候事

蓋紙左之通、同案弐冊掛張ニいたし、表之方上下掛印、裏之方真中ニ壱ケ所掛印

嘉永四年亥五月

差　出

二番与小与七番方限
一代新番　児玉五兵衛

一代新番
児玉五兵衛

一　持高弐拾六石弐斗五升

一　屋久島奉行

但、御軍役不被仰付置候

一　当亥四拾七歳

一　居所高見馬場

右御用相成候間可申出旨被仰渡趣承知仕、右之通御座候間、此段申上候、以上

嘉永四年亥五月　　児玉五兵衛印

右之通小番新番触支配宮内藤助殿所江、亥五月七日迄出掛、下人江為持差遣候処、慥ニ受取候段承届置候事

高頭弐拾六石弐斗五升

諸出米弐石四斗壱升五合

高三石　　高山　野崎村

米壱石壱斗九升四合

右壱行柏原出物蔵入

高六石弐斗五升　　鹿児島　中村
米壱石弐斗弐升壱合
右壱行当所出物蔵入
右は私持高出米上納仕候間、此段申上候、以上
亥五月　　児玉五兵衛印
高奉行所
右此節三升重御免ニ付、差引出米書出帳面弐冊ニ〆不及掛張高奉行所江亥五月廿二日西郷助右衛門殿江頼差出候事
ふた紙左之通
嘉永四年亥五月
持高出米書出
児玉五兵衛
旅人召抱候有無可申出旨被仰渡趣承知仕、私儀旅人召抱置候者無御座候、此段申出候、以上
亥五月廿三日
一代新番
児玉五兵衛印
右之通触支配宮内藤助殿所江為持差遣候事

一　亥五月廿四日
太守斉彬公御初入部、初て今日惣出仕被　仰出、同役皆吉金六、西田弥右衛門、伊地知十郎左衛門、五兵衛出殿、御対面ニおゐて　御目見被仰付候、諸御役人多人数有之、引続キ諸士も御目見、拾壱升り有之候事
但、五兵衛朝出前ニ付、御目見済壱人屋久島座江罷出候、書役は久留助八壱人也

一　亥五月廿九日五兵衛壱人出殿、明朔日月并之御礼御請被　遊候付、習礼として桜之間江罷出、於御書院五兵衛頭席ニて二篇廻り、九ツ時習礼相済、詰所江は不罷出引取候事

一　嘉永四亥七月十日、五兵衛事御家老座書役蔵方被仰付候、（朱書）（拙者壱人前六十三両ニ致附属候事）其数之内ニて、今日加世田小松原出物蔵被仰付候旨、高奉行国分十左衛門殿より児玉十悦致承知、御取次御勝手方御用人二階堂源太夫殿より蔵方名代名前児玉十悦ニと申出置候、引合出物蔵同役白石覚左衛門殿ニて候事
本文通拙者案文いたし、大迫喜右衛門殿江認方相頼、同人より御勝手方御用人谷川次郎兵衛殿江差出貰候事、屋久島方日帳ニも留有之
留　覚
印鑑相古、此節改印仕候付、今日より相用申候、此段御届申上候、以上
嘉永四亥七月十六日　　児玉五兵衛
古印鑑不用格護いたし置也
ドヲ石
右長井仲兵衛殿調
改印　利容
唐金調獅子之形ち、尾之方上イン肉入
もかね
右御小姓与有馬武左衛門殿調
手間料壱貫五百文

差出
巳札御改元
家内人数六人
内壱人出人

安　藤　　保（研究紀要　第三十五巻）

壱人死人
現人数四人
出銀四分
右は当亥年壱分為出銀上納仕候、以上
亥八月十日

一代新番
児玉五兵衛印

差出
戌八月より当亥七月迄之間何御奉公相勤候哉、可申出旨承知仕候、私事戌八月より当亥二月廿日迄御家老座書役ニて奥掛書役勤、同廿一日屋久島奉行御役被仰付相勤申候、尤持高弐拾六石弐斗五升所持仕候、此段申出候、以上
亥八月十日

一代新番
児玉五兵衛印

右壱分出銀并小普請銀差出、触支配黒木源右衛門殿江為持差遣候事、尤壱分出銀四拾文為持差遣候事

宮内藤助組合
触支配并
二才方取締
児玉五兵衛

右之通被仰付候
十月
右之通嘉永四亥十月十三日、五兵衛大番頭座江罷出、近在掛衆江御届申出候、尤直ニ大番頭島津隼見殿より被仰付候旨、御書付被相渡候、写本行通ニて候、尤昨十二日御用触致承知候事

一　嘉永四亥九月廿五日、海老原庄兵衛殿流儀、御家老衆其外御役々御見分有之候、五兵衛儀茅術(柔)手続相勤、打出し昌山吉次郎殿ニて候、同廿七日於演武館　太守斉彬公御覧有之、罷出同断相勤候、七ツ後相済帰り掛、海老原氏江祝儀ニ取掛、夫より御酒為戴皆吉金六殿所座本江差越候事

御自分事産穢ニて候得共、御用差支候付穢被成御免候条、明日より可被致出勤旨御差図ニて候、以上
嘉永四年亥
十月十九日

谷川次郎兵衛
児玉五兵衛殿

右下紙半切切封ニて候、ふう御付受書左之通
私事産穢被成御免明日より出勤可仕旨被仰渡趣奉畏候、以上
十月十九日

谷川次郎兵衛様

児玉五兵衛

右之通百田半切紙ニ認、切掛ニて触番江相渡候事

一　同案式冊掛張表之方上下掛印、裏之方真中壱ケ所掛印ふた紙左之通

嘉永四年亥十一月
差出
二番与小与七番方限
一代新番
児玉五兵衛

一代新番
児玉五兵衛

一　持高弐拾六石弐斗五升
一　屋久島奉行
但、御軍役不被仰付置候

一 当亥四拾七歳
一 居所高見馬場
右御用相成候間可申出旨被仰渡趣承知仕、右之通御座候間、此段申上候、以上
嘉永四年亥十一月　　児玉五兵衛印
右之通触支配林休左衛門殿方より亥十一月十九日晩付差出候様致承知候付、即日直ニ下人次郎江為持差出候処慥ニ受取候段承届候事

留　差出
真米壱斗三升　囲米
持高弐拾六石弐斗五升
現取納米八石六斗七升九合
但、壱石ニ付壱升五合ツ、
右は持高取納米之内、御買上被仰付候旨被仰渡候間、右通囲米仕置候間、上納仕度奉存候、此段御届申上候、以上
亥十一月十日　　児玉五兵衛
右之通半切紙ニ認嘉永四亥十一月十日小番新番触支配林休左衛門殿より差出方致承知候付即日下人江為持差遣候処、慥ニ被受取候旨承届候事
(朱書)
「本文ニ付子二月五日上納いたし、受取書左之通
受取
割印
真米壱斗三升 印印
右御買入米〆上納也
子二月五日　　当所出物蔵役人印」

留　差出
此節弓就　御覧出銀被仰付候付、持高員数可申出旨被仰渡趣承知仕、私持高弐拾六石弐斗五升所持仕候、此段申上候、以上
亥十二月朔日　　一代新番
児玉五兵衛印
右之通可差出旨亥十二月朔日触支配林休左衛門殿より致承知候間、即日八ツ後次郎江為持差遣候事

留
二番組一手小頭
屋久島奉行　児玉五兵衛
外ニ連名人数一紙ニ左之通
宗門改　重久筑次郎
宗門改　別府十左衛門
寺社方取次　三原善兵衛
郡奉行見習　小倉四郎太
御右筆見習　森六郎兵衛
師□頭取勤
右は山川其外西目海岸江異国船及渡来、御人数被差向候節右通被仰付条、兼て其旨相心得罷在候様可致内達事
嘉永四亥
右御書付写之通亥十二月廿七日御軍役奉行川上式部殿より切紙ニて、明廿八日四時御用到来罷出候処、御軍役掛御家老黒木豊後殿より御内達候、御書付本行通被相渡候付、留置候事
百田紙堅覚　　請取数五通
高頭弐拾六石弐斗五升
出米弐石弐斗弐升六合　壱石ニ付八升壱合ツ、
内真米壱石六升三合

赤米壱石六升三合

真米壱斗八升八合　賦米　壱石ニ付壱升壱合ツヽ

合真米壱石三斗五升壱合

合赤米壱石六升三合

受取数弐通

一　真米壱石弐斗弐升壱合　当所出物蔵入

受取数弐通

一　真米五斗六升九合　柏原出物蔵入

受取壱通

一　赤米六斗四升　右同蔵入

合真米壱石七斗九升

内四斗弐升三合　赤米代ニ入

合赤米六斗四升

差引真米壱升六合過

右は私持高去亥秋綱被仰付被下度奉存候、以上

子二月十二日　児玉五兵衛印

高奉行所

本行高所書役西郷助右衛門殿江相頼、今日綱相進候処、即相認候段承届、過米も売払貰、代銀受取候事

覚

一　高拾七石　鹿児島　犬迫村

一　高六石弐斗五升　鹿児島　中　村

一　高三石　高山　野崎村

右之通私持高所持仕候、以上

子二月十二日　児玉五兵衛印

高奉行所

差出

出銀壱匁三分壱厘

但、持高弐拾六石弐斗五升

右は弓就　御覧、進上物之外諸入目料として、銀上納可仕旨被仰渡承知仕、右之通上納仕候、以上

子三月廿一日　一代新番　児玉五兵衛印

右之通触支配有馬弘右衛門殿所江為持差出候事

留　口上覚

私事長々足之痛有之、段々尽手養生仕候得共、今以寸切と全快不仕、此涯湯治相応可仕旨療医より承申候間、何卒三廻御暇被成下度奉願候、左様御座候は、御蔭を以市来温泉江差越、得と入湯仕度奉存候、此等之趣被仰上可被下儀奉頼候、以上

但、療医証文相添差上申候

子三月廿二日　児玉五兵衛　取次二階堂源太夫

右医師証文は、白尾貞斉殿江認貰、相添差出候処、いし証文は不相□事

本文ニ御付紙差之通

願之通御暇被下候

三月　近江

右之通本文大迫喜右衛門殿江相頼相認貰、同人より名代ニて御勝手方御用人二階堂源太夫殿江差出置候処、同廿五日前条通御暇被下旨取次御勝手御用人伊集院伊膳殿より大迫喜右衛門殿名代承知ニて致承知候事

本文ニ付子四月七日より内々頼合、直太郎召列れ、下人次郎も列れ差越、同十日より差越候御届書大迫喜右衛門殿を以申出、同五月朔日罷帰、同三日罷帰候旨御届、二階堂源太夫殿江申出候事

児玉五兵衛殿　新納主税

御自分事忌中ニて候得共、御用差支候付忌被成御免候条、明日より可被致出勤旨御差図ニて候、以上

三月廿二日　柿本寺通下

御請書

ふた紙

嘉永五年子正月

差出

二番組小与七番方限
一代新番
児玉五兵衛

一代新番
児玉五兵衛

一　持高弐拾六石弐斗五升

一　屋久島奉行

但、山川其外西目海岸江異国船及渡来、御人数被差向候節、二番組一手小頭被仰付置候

一　当子四拾八歳

一　居所高見馬場

右御用相成候間可申出旨被仰渡趣承知仕、右之通御座候間、此段申上候、以上

嘉永五年子五月　児玉五兵衛印

右同案弐通認、子五月十四日触支配福島半助殿所江為持差遣候処、慥ニ受取候段下人次郎より承届候事

留　差出

安藤　保（研究紀要　第三十五巻）

巳札御改元

家内人数六人

内壱人出人

壱人死人

壱人生子

現人数五人

右は切支丹宗門御改ニ付被仰渡趣承知仕候、右宗旨之者無御座候、若以後入来申候は、即言上可仕候、以上

子六月十九日　一代新番家督

児玉五兵衛印

右之通今日通達有之候付、触支配聞前林休左衛門殿方江為持差遣候事

差出

亥八月より子七月迄之間何御奉公相勤候哉、可申出旨被仰渡趣承知仕候、私事右月数屋久島奉行御役被仰付置相勤申候、尤持高弐拾六石弐斗五升所持仕候、此段申出候、以上

子八月　一代新番

児玉五兵衛印

本文拙者聞前ニて拙者より外々取揃、大番頭座江差出候事

児玉五兵衛

右は此節札改付、高岡并御一門方種子島弾正殿、島津下総一列、私領九ケ所之内札改検使被仰付候、右申渡勤方之儀は、札改奉行江可得差図旨是又可申渡候

八月　多門

右ニ付子八月廿八日表御用人島津隼人殿より、御用ニ付明廿九日四時可罷出旨御

触致承知候付、廿九日四時罷出御届申出候処、前条之通被仰付旨、御書付被相渡候、夫より札改奉行所江罷出、小頭八木源七殿江届申出置候事

右ニ付御礼廻り左之通

御勘定之内

本田六左衛門殿、島津登殿、北郷万夫殿、頴娃織部殿江差越候、御掛

御家老喜入多門殿江は罷出、御直ニ御礼申出候、取次御用人島津隼人殿江も差越候事

一　差越場所之儀、本田六左衛門殿、島津登殿江内意申上置候事

一　子九月四日私之場所昨日相知れ候段、粗聞請候付、今日札改所本占方書役樺山休左衛門殿江名代頼越候処、左之通申来

覚

一　今出水（和泉）　百弐拾八日　引合　本田半兵衛

改日数　児玉五兵衛

右之通致承知候て、来ル廿五日出立之日限定候、前々日廿三日御条書等御書付可相下候付、無間違御届罷出候様致承知候付、今日退出後本田半兵衛殿所江差越、直ニ引合置候事

差出

巳札御改元家内人数六人

内壱人出人

壱人死人

外ニ壱人生子

現人数五人

出銀五分

分ニ〆四拾八文

右は当子年壱分為出銀上納仕候、以上

子八月廿五日

一代新番

児玉五兵衛印

右拙者触支配聞前ニ付取揃、一緒ニ差出候事

留覚

巳札御改元人数四百三拾六人

内出人四拾六人

死人五拾三人

外ニ生子弐拾五人

入人九拾三人

現人数四百五拾五人

出銀四拾五匁五分

銭ニ〆四貫五百四拾八文

札元家部三拾弐

内出家部四ッ

外ニ入家部拾三

現家部四拾壱

右は触支配中人数壱分銀上納仕候間、納方被仰渡度奉存候、以上

子九月十四日

小番新番

触支配

児玉五兵衛

大番頭座

請取　壱分艮方

分四貫五百四拾八文

艮ニ〆四拾五匁五分

見分鈴田筑左衛門印

人数四百五拾五人
壱人ニ付壱分ツヽ、
加治屋町方限
触支配児玉五兵衛
右は当子年壱分出銀〆上納也
子九月十六日　野崎野七
愛甲次左衛門印

右受取子九月十七日中山庄左衛門を以相受取、本受取は触支配相中箱江納方、伊地知十郎左衛門殿江於座同日直ニ渡シ相頼候事

右之通綱書今朝大番頭座書役福島助右衛門殿方差越相頼、差出貰候処、翌十五日寺社方江可相廻承り候付、同九月十六日屋久島方手伝中山庄左衛門を以、現分下人江為持寺社方江上納方頼遣候処、引付も相受取、直ニ上納相済候、受書は御座候、可相渡旨之由承届事

留　差出
真米壱斗三升　囲米
持高弐拾六石弐斗五升
現取納米八石六斗七升九合
但、壱石ニ付壱升五合ツヽ、
右は持高取納米之内、御買上被仰付候旨被仰渡候間、右通囲米仕置候間、上納仕度奉存候、此段御届申上候、以上
子十一月　児玉五兵衛

留
ふた紙
嘉永五年子十一月
安藤　保（研究紀要　第三十五巻）

差出
二番組小与七番方限
一代新番
児玉五兵衛

後
一代新番
児玉五兵衛
一　持高弐拾六石弐斗五升
一　屋久島奉行
但、山川其外西目海岸江異国船及渡来、諸人数被差向候節、二番組一手小頭被仰付置候
一　当子四拾八歳
一　居所高見馬場
右御用相成候間可申出旨被仰渡趣承知仕、右之通御座候間、此段申上候、以上
嘉永五年子十一月　児玉五兵衛印

右同案式通掛張いたし、子十一月十日触支配堀八郎右衛門殿方江差出候、尤彼方御返達箱之内江入置候事

前
御軍役御用付、所持之武器可申出旨被仰渡趣承知仕、左ニ申上候
一　持高弐拾六石弐斗五升
一　鉄炮弐挺
内一挺六匁弐分、一挺玉目三匁弐分、銘々鋳并□玉胴乱相添
一　手鑓壱本
一　陣笠弐ツ
一　半首三ツ
右之通相違無御座候、此段申上候、以上
嘉永五年子十月十八日

一代新番
児玉五兵衛

右之通百田紙掛張ニいたし、同案弐通認、触支配黒木源右衛門殿所江差出ス、五兵衛今和泉旅行留主也

一　嘉永五年子九月廿五日より五兵衛事今和泉宗門手札改検使と〆被差越、同六年丑二月四日迄改日数百二十八日ニ相成、外ニ往来日数二日、合百三十日ニて今和泉二月六日打立、即日罷帰候処、亡父上様御為異父之御兄弟伊集院甚右衛門様、同五日御病死、同六日御葬式之由承候付、同七日早朝同役本田半兵衛殿方江十悦殿を以焼印二本、御条書等入一袋并右之内ニ宗門方より相渡候御書付壱通、寺社方より相渡候御書付壱通入、次郎江為持、半兵衛殿江相頼差出候、尤札方御届之儀も、半兵衛殿江手掛を以頼越候、御殿御届大迫喜右衛門殿江相頼、壱通申出候、屋久島方江は十悦殿を以、同役東次郎左衛門殿江届相頼候事

親類児玉五兵衛事、今和泉札改検使として被差越、今晩罷帰候得共、忌中ニて御座候間、此段私より御届申上候、以上

二月七日

御勝手方書役助
大迫喜右衛門

右之通同案弐通、御勝手方御用人衆方江は同人より伊集院喜左衛門殿江被差出呉候由、表御用人衆方は御用人座頭取方より出方相頼被呉候由、二月八日喜右衛門殿私宅江被参、直ニ承届候事

一　御軍役方并大番頭座も大迫喜右衛門殿より御達を以御届相済候事

一　伊集院甚右衛門様御事、五兵衛祖父之続、五日忌相掛候付、先五日被致病死候日より九日迄五日之忌相受候、纔計之日数故、屋久島方御吟味候上、忌御免被成不相成様被取計候間、東次郎左衛門殿より二月七日入来承届候、右五日之忌ニて服十五日ニて候事

児玉五兵衛殿
外々略ス

右は明十七日朝五ツ時より九ツ時迄、於当所出物蔵御買上米取納有之候間、書出通上納可被致候、以上

丑二月十六日

御買上米掛
高奉行

真米壱斗三升
持高弐拾六石弐斗五升
現取納八石六斗七升
但、壱石ニ付壱升五合ツヽ、

右は持高、取納米之内御買上被仰付、囲置申候処、今日上納仕候様被仰渡候付、右之通上納仕候、以上

丑二月十七日

児玉五兵衛

本行ニて御代払相成候間、現米上納之向は、受取書、印形持参いたし、四ツ時より九ツ時迄之間、当所出物蔵江罷出可申受旨、前日触書致承知、丑三月十三日受取候事

受取
真米壱斗三升

児玉五兵衛

右御買上米〆上納也

丑二月十七日

当所出物蔵役人印

留覚　受取数六通
現米上納受取壱通

高頭弐拾六石弐斗五升
出米弐石壱斗弐升六合

内真米壱石六升三合
赤米壱石六升三合
真米弐斗八升八合　賦米
合真米壱石三斗五升壱合
合赤米壱石六升三合
受取数弐通
一　真米六斗八升壱合　当所出物蔵入
受取壱通
一　赤米五斗四升　右同蔵入
受取壱通
一　真米三斗壱升四合　柏原出物蔵入
受取壱通
一　赤米三斗弐升三合　右同蔵入
一　真米三斗五升六合
一　赤米弐斗三合
右弐行当所出物蔵江現米上納
合真米壱石三斗五升壱合
合赤米壱石六升六合　①
差引赤米三合過
右は私持高去子秋綱被仰付被下度奉存候、以上
丑三月十四日　児玉五兵衛印
高奉行所
本行丑三月十四日朝受取書等一口と〆西郷小右衛門殿方江次郎使ニて為持候上、綱相頼候処、慥ニ被相受取候段承届候事
本文綱相済候段慥ニ直ニ承届、赤米三合之過米は不承候
①本行現米上納出物蔵役人西川彦八殿、肝付俊次郎殿江川西仁左衛門殿より相談いたし貰、代銀引結、真米拾三〆五百文替、赤米拾三〆三百文替ニ〆、真赤代銀七〆五百六文、丑三月十一日入付候処、同十二日付ニて同十三日現米上納候受取受取置候事
右現米は弐盃入三俵、椎原権兵衛方より借〆売払之上引結御届候事

覚

一　高拾七石　鹿児島　犬迫村
一　高六石弐斗五升　鹿児島　中村
一　高三石　高山　野崎村
右之通私持高所持仕候、以上
丑三月十四日　児玉五兵衛印
高奉行所

留

嘉永六年丑五月
差出
二番組小与七番方限
一代新番
児玉五兵衛
一代新番
児玉五兵衛

一　持高弐拾六石弐斗五升
一　屋久島奉行
但、山川其外西目海岸江異国船及渡来、諸人数被差向候節、二番組一手小頭被仰付置候
一　当丑四拾九歳
一　居所高見馬場
右御相成候間可申出旨被仰渡趣承知仕、右之通御座候間、此段申上候、以上
（用脱カ）

嘉永六年丑五月十四日　　児玉五兵衛印

右同案弐通相認、丑五月十四日触支配福島半助殿方より差出候様致承知、直ニ触箱ニ入付使之小二才江申付頼遣候事

差出

巳札御改元
家内人数六人
内壱人出人
壱人生子
壱人死人
現人数五人

右は切支丹宗門御改付、被仰渡趣承知仕候、右宗旨之者無御座候、若以後入来申候は、即言上可仕候、以上

丑六月十八日　　一代新番家督　児玉五兵衛印

右之通来ル廿二日限差出候様今朝触支配黒木源右衛門殿方より通達有之候付、直ニ相認今朝次郎江為持差遣候事

御本文此下ニ入置成

御用之儀候間、明四日四時可被罷出旨、多門殿依御差図申達候、以上

八月三日　　伊集院伊膳

下紙半切切封也
児玉五兵衛殿

（本文略す）

継紙御請書

私事御用之儀候間、明四日四時可罷出旨、依御差図御達之趣奉畏候、以上

八月三日　　児玉五兵衛

百田半切切封シニ認、触番江相渡ス、御勝手方御用人也
伊集院伊膳様

下紙半切認、多門殿より被相渡候御書付之写と有之、左之通

右来寅春交代屋久島在番被仰付候条、可申渡候　　児玉五兵衛

八月　多門

右之通嘉永六癸丑八月四日四時麻袴御用ニて罷出、御勝手方御用人伊集院伊膳殿江御届申出候処、扣居候様致承知、追付御目付梅田九左衛門殿席詰ニて御勝手方御用人衆座ニおゐて、右伊膳殿より談致シ、御書付写被相渡、夫より引取、屋久島座江出て吹聴いたし、尤今朝屋久島方朝出前ニて出席之上、四時御殿候様罷出、又々右通出席御暇いたし、御勝手方御家老喜入多門殿内玄関江名札為御礼差出置候、夫より東次郎右衛門殿戸口迄礼ニ差越引取帰候、伊集院伊膳殿方江は翌五日、右通被仰付候名札を以、児玉十悦殿江相頼、伊膳殿方江名札差出置候事、御書付写は、此所ニ入置也

多門殿より被相渡候御書付之写　　児玉五兵衛

右来寅春交代屋久島在番被仰付候条、可申渡候

八月　多門

留　口上覚

私事足之痛御座候付、差起候節々当秋中足袋相用候儀御免被仰付被下度奉願候、此等之趣被仰上可被下儀奉頼候、以上

丑八月六日　　児玉五兵衛

本文ニ御張紙

願之通被成御免候
八月　多門
右之通大迫喜右衛門殿江願書認方迄も相頼差出貰候処、取次二階堂源太夫、嘉永六癸丑八月六日本文通被成御免候段、大迫氏より為持被呉相受取候事

差出
子八月より丑七月迄之間何御奉公相勤候哉、可申出旨被仰渡趣承知仕候、私事右月数屋久島奉行御役被仰付置相勤申候、尤持高弐拾六石弐斗五升所持仕候、此段申出候、以上
丑八月十一日　一代新番　児玉五兵衛印
右之通差出候様触支配面高十五郎殿方より致承知、今朝認、下人次郎江為持差出候事

留　差出
子札御改元
家内人数六人
内壱人出人
現人数五人
出銀五分
銭ニ〆四拾八文
右は当丑年壱分為出銀上納仕候、以上
丑八月十八日　一代新番　児玉五兵衛印
右之通当月聞前面高十五郎自筆を以、有馬覚右衛門殿方江為持為持遣(衍カ)候様と之事承り候、次郎江為持有馬方江為持差遣候処、慥ニ受取候段承届候事

留　口上覚
私事足之痛有之歩行不自由御座候付、御城内并御寺方等杖御免被仰付被下度奉願候、此等之趣被仰上可被下儀奉頼候、以上
八月十八日　児玉五兵衛
御張紙
願之通被成御免候
八月　多門
右之通嘉永六年癸丑八月十八日朝、大迫喜右衛門殿江相頼認差出貰候処、即日御免有之候付、八後為持参り相受取、為見合留置候事
(朱筆)
当年は帳面仕立

差出
真米壱斗三升　囲米
持高弐拾六石弐斗五升
現取納米八石六斗七升九合
但、壱石ニ付壱升五合ツヽ、
右は持高取納米之内御買上被仰付候旨被仰渡候間、右通囲米仕置候間、上納仕度奉存候、此段御届申上候、以上
丑十月十日　児玉五兵衛　印名なし
右之通直御買上、又ハ本米渡之内より上納候様御通達、触支配林休右衛門殿方より丑十月九日被相達候付、今朝認為持差遣候事
右通差出置候処、当年之儀は帳面を以差出候様、丑十月廿一日林氏より為持来候付、上を差出ト認、外ニ壱枚ニ本文通認直シ、印形も不及差遣候処、慥ニ受取候段次郎使ニて承届候事

留
ふた紙掛張同案弐通
嘉永六年丑十一月

差出

二番組小与七番方限
一代新番
児玉五兵衛

一代新番
児玉五兵衛

一　持高弐拾六石弐斗五升
一　屋久島奉行
　但、山川其外西目海岸江異国船及渡来、諸人数被差向候節、二番組
　一手小頭被仰付置候
一　当丑四拾九歳
一　居所高見馬場
　右御用被成候間可申出旨被仰渡趣承知仕、右之通御座候間、此段申上
候、以上

嘉永六年丑十一月　　児玉五兵衛印

児玉五兵衛殿
外々略ス

右者明十八日朝五ツ時より九ツ時迄、於当所出物蔵御買上米上納有之候
間、差出之通上納可被致候、以上

とら(ニカ)十一月十七日　　御買上米掛
高奉行

当年八百田半切認　差出
一　真米壱斗三升　囲米
　持高弐拾六石弐斗五升
　現取納米八石六斗七升五合
　但、壱石ニ付壱升五合ツヽ
右之持高取納米之内御買上被仰付囲置申候処、今日上納仕候様被仰渡候
付、右之通上納仕候、以上

寅二月十八日　　児玉五兵衛跡

右之通差出相添四ツ時出物蔵江差出候処役人受取左之通り

受取
　真米壱斗三升者　　児玉五兵衛殿
右御買上米と〆上納也

寅二月十八日　　当所出物蔵役人

証文
一　金子五両　利壱わり
　但、両ニ付七貫弐百文替
　本文受取返相成候事
右は親類亡児玉五兵衛跡家内当用ニ付、致御借用候儀別条無御座候、御
返金之儀ハ寅十二月限元利共可致太尾候、為質物五兵衛持高之内高山野
崎村下大薗門之内浮免高三石之名寄帳壱冊差上置候間、万一利足等相滞
候欤、又ハ御返金限月相過候節ハ、右高御勝手次第御取計可被下候、至
其期聊難渋ケ敷儀共申上間敷候、為其私共証拠相立証文如斯御座候

嘉永七年寅二月　　高主亡児玉五兵衛
親類　児玉四郎兵衛
証拠　川西仁左衛門

新納瑞策殿

請取
金子五両　利壱わり
右は親類亡児玉五兵衛家内当用ニ付、私共証拠相立、無拠御拝借申上置、

慥ニ相受取申候
嘉永七年寅二月

亡児玉五兵衛親類
児玉四郎兵衛
川西仁左衛門

新納瑞策様

（朱書）
本文受取返相成候事

嘉永七年寅五月　此場蓋紙掛張掛印之事

二番組小七番方限（与脱カ）
児玉五兵衛跡

一　児玉五兵衛跡持高弐拾六石弐斗五升
一　居屋敷壱ヶ所
一　児玉五兵衛跡居所高見馬場通り
一　五兵衛嫡子拾五歳以下ニて御座候、尤未跡職不被仰付候
右御用御見合相成、可申出旨被仰渡趣承知仕候、右通御座候、此段私より申上候
嘉永七年寅五月十六日

二番組小与七番方限
児玉五兵衛跡名代
児玉十兵衛印

二番触役所
右之通認て同案弐通嶺崎兵三左衛門所江遣シ

差出
子札御改元
家内人数六人
内壱人出人

安　藤　　保（研究紀要　第三十五巻）

壱人死人
右は切支丹宗門御改ニ付被仰渡趣奉承知候、右宗旨之もの無御座候、若以後入来候ハヽ、即言上可仕候、以上
寅六月十四日

亡児玉五兵衛跡親類名代
児玉十兵衛印

二番触役所
小与頭肥後源助殿江十悦より差出置候事

児玉直太郎殿
外ニ弐人

右御用候間、明廿四日四ツ時麻袴着用、八歳以下之人は名代右同服ニて罷出、御目付江取会届可被申出候、病気等候ハヽ、右刻限前以御断届可被申出候、以上
六月廿三日

高橋縫殿
毛利三蔵
児玉直太郎
八代三次郎

（右文と同じに付、略す）

左之通帳面江仕立候て、十月十四日小与頭平山嘉十郎所へ為差遣候事
一　真米壱斗三升　　囲米
持高弐拾六石弐斗五升
現取納米八石六斗七升九合
但、壱石ニ付壱升五合ツヽ
右は持高取納米之内、御買上被仰付候旨被仰渡候間、右之通囲米仕置候内上納仕度奉存候、此段御届申上候、以上

寅十月十日

二番組小与七番
児玉直太郎印

左通認候て平山嘉十郎所へ為持差出候事

籾大豆四拾六表(俵)弐斗弐升　鹿児島犬迫村之内
一　高拾七石　上久木田門

籾大豆八表八升
一　高三石　高山野崎村
下大薗門之内浮免

籾大豆拾七表五升
一　高六石弐斗五升　鹿児島中村
堂薗門浮免

合高弐拾六石弐斗五升

右は私持高員数并銘々村名門名迄も細々可申出旨被仰渡、右之通相違無御座候、此段申上候、以上

寅十月十日　二番組小与七番方限
亡五兵衛跡名代
児玉直太郎印

証文

一　金子四拾五両
〃〃〃〃
三拾五両

右家屋敷代之内と〆相受取申候

寅十月廿五日　山崎半助印

伊東

別段四拾五両之受取書直シ候事

本文書出通、半助殿より被遣付、現証文不見届、此通之段承及記置也十悦筆記

請取
証文
〃〃

金子拾両印
〃〃〃〃
四拾五両印

右は親類亡児玉五兵衛跡家屋敷代として慥ニ相受取申候

寅十月廿九日　山崎半助印
児玉十悦印

伊東正八郎様

証文

高見馬場通
家屋敷

右は私親類亡児玉五兵衛家屋敷、此節都合三百弐拾四貫文ニ譲渡申上儀別条無御座候、屋敷直ニ付ては、於私共何そ故障之訳無御座候間、御勝手次第屋敷御直シ可被下候、為後日如是御座候

寅十月廿八日　亡児玉五兵衛跡名代
児玉十悦印

伊東正八郎様

証文

平山加十郎近所
高見馬場通
屋敷百六拾坪

但、譲請屋敷

譲渡
亡児玉五兵衛跡
児玉直太郎

譲受

伊東正八郎印

右は私居屋敷此節御方へ永代譲渡申候間、可被成御披露候、為後証如是御座候、以上

嘉永七年寅　　児玉直太郎印
十月廿八日
伊東正八郎殿

請取

金八両印　両ニ付七〆弐百文
分ニ〆五拾七〆六百文
家壱軒代

右は乙名村家壱軒、御方様へ売渡候儀別条無御座候、尤代金八両慥ニ相受取申候、以上

寅十月廿七日　　川村十郎左衛門印
山崎半助様
（本文同文に付略す）

右川村氏へ半助殿十悦同道ニて差越、金子引渡、右家受取方と〆十悦壱人、右十郎左衛門殿同道差越、即受取置申候、引取候事

差出　当年通

一　持高弐拾六石弐斗五升
一　児玉五兵衛跡
一　居やしき所持不仕候
一　居所下荒田借地

右御用御見合相成候間可申出旨可仰渡趣承知仕候、右通御座候間、此段御届申上候、以上

安藤　保（研究紀要　第三十五巻）

年号

寅十一月廿四日

児玉五兵衛跡名代
児玉直太郎

二番触役所

本文同案弐通認、二番組小与頭嶺崎兵三左衛門殿江十二月朔日跡月の日付ニて十悦より差出置候事

児玉直太郎殿

右御用候間、明廿四日四ッ時麻袴着用、八歳以下之人は名代同服ニて罷出、御目付江取会届可被申出、病気等候ハヽ、右刻限前以御断之届可被申出候、以上

卯四月廿三日　　御用人

本文直太郎罷出候処、島津隼人殿御取次を以、亡父継目卯十月廿四日被仰付候事

口上覚

願名

児玉直右衛門

私事亡父児玉五兵衛継目被仰付、難有仕合奉存候、依之御序之節御礼并初て之　御目見被仰付被下度奉願候、私儀、代々　御城下江罷居申候、尤名前之儀も奉願候、右之趣被仰上可被下儀奉願候、以上

卯四月廿五日　　比志島静馬組
御小姓与
児玉直太郎

二番触役所

本文伊藤清次郎殿江四月廿五日願、御目見之節は別段願出ニ不及段清次郎殿より承届ル

差出

一 当拾壱才　児玉直太郎

一 持高弐拾六石弐斗五升

一 勤方無御座候

一 居所下あら田

右御用相成候間可申出旨被仰渡趣承知仕、右之通御座候間、此段申上候、

以上

安政二年
卯五月

二番組小与七番
児玉直太郎

二番触役所

同案弐通卯五月廿六日児玉万四郎殿へ頼、嶺崎兵三左衛門殿所へ出ス

差出

子札改元
家人数六人
内壱人出人
内壱人死人
現人数四人
出艮四分

右は当卯年壱分出艮と〆上納仕候、以上

卯八月九日

家とく
児玉直太郎

二番組触役所

差出

真米壱斗三升　囲米

持高弐拾六石弐斗五升

現取納八石六斗七升九合

但、壱石ニ付壱升五合ッ、

右は持高取納米之内御買上被仰付候旨被仰渡候間、右之通囲米仕置候間、上納仕度奉存候、此段御届申上候

卯十月十九日

家とく
児玉直太郎印

当年も帳面ニ仕立

十二月廿日本文平田嘉十郎殿所江児玉万四郎殿ヲ以差遣候

差出

近日中初て之　御目見被仰付候儀も可有之候間、其心得可仕由ニて段々被仰渡御問条之趣承知仕候

一 私事五兵衛継目被仰付、継目之御礼并初て之　御目見奉願置候、近日中　御目見被仰付候ても何そ差支無御座候、尤親類中御咎目被仰付候者無御座候、其外遠慮不仕候て不叶儀無御座候

一 何そニ付私并其身差扣相伺置候儀無御座候

一 先祖代より郷養子又は郷より被召出候者無御座候

一 附郷士より私并其身又ハ先祖代養子罷成候者無御座候

一 諸与与力より私并其身先祖代養子被仰付候者無御座候

一 初て之　御目見不仰付内、角入前髪取被仰付候儀無御座候

一 願名市左衛門と申出候

一 奥向御奉公不仕候

一 代々御小姓与被召入置、私迄御小姓与被仰付、私勤方無御座候

一 私実父児玉五兵衛屋久島奉行御役被仰付置一代新番ニ被入置候

一 嫡家児玉十悦ニて御座候、十悦祖父十兵衛弟善七別立被仰付、私祖父ニて御座候

一　私又は先祖代御赦免被仰付候者無御座候
一　初て之　御目見相済不申候
一　幼少又は極貧者ニて名代を以致進上物候儀無御座候

畠山主計組
御小姓与
児玉直太郎

幼少名代
畠山主計組
御小姓与
川西仁左衛門

差出
手札御改元
一　家内人数六人
内弐人出人
壱人死人
現人数三人
右は切支丹宗門御改ニ付被仰渡趣承知仕候、右宗旨之者無御座候、若以後入来候ハヽ、則言上可仕候、以上
巳六月廿日　児玉市左衛門
壱番触役所
本文士持甚蔵殿へ出ス